

希望広げる政権協力合意

政治 一考

日本共産党の志位和夫委員長と立憲民主党の枝野幸男代表が交わした共通政策実行のための政権協力合意(9月30日)。その知らせは、草の根に疾風のように広がって力を発揮しています。

「2015年8月。国会前に12万人、全国で100万人が立ち上がった安倍法制阻止のたたかい。あの時のエネルギーをもう一度引き出し、爆発させるチャンスがきた」
安倍改憲と向き合ってきた「オール埼玉総行動」実行委

議員長の小出重義弁護士(埼玉弁護士会元会長)は力を込めます。「政策合意に続く政権協力の合意。画期的で非常に大きい前進だ。私は街宣や決起集会で話すたびに必ずこの合意に触れている。これまで政策合意はあったが、それを実行する政権合意がはっきり示されず、国民に納得できる選択肢になれなかった。本気になって立ち向かう必死の思い、真剣さが伝わらないとだめだった。それが示された」

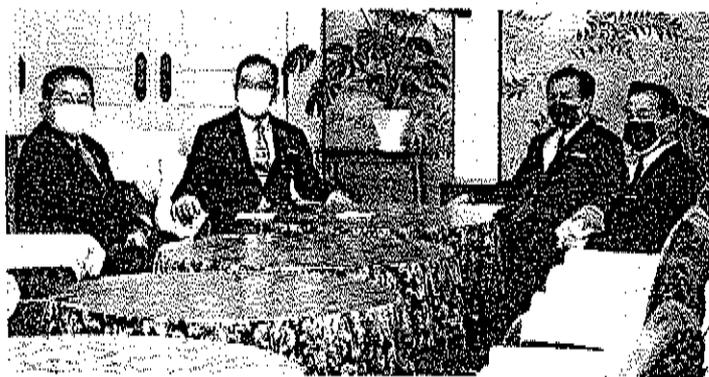
新政府に王手

「戦争させない・9条壊すな」総がかり行動実行委員会
共同代表の高田健氏は、

共通政策で安倍・菅政治変わる

「2015年安保」のたたかいで、街頭、地域で頑張るだけでなく、国会でも野党と協力し正しい政権をつくらなければ立憲主義回復をはじめ切実な要求、課題は実現しない。そう痛感したといえます。「あれから6年、シグザグはあったが野党が政権で協力する。命と暮らしと人間の尊厳を守る新しい政治、新しい政府をつくるどころに王手がかかった。あと半月あまりのたたかいだが、みんな勝つための構えはできている」と深い決意をにじませます。

合意に付された「限定的な閣外からの協力」について、メディアが「曖昧だ」と疑



会談する志位(中央左)、枝野(中央右)の両氏ら(9月30日、国会内)

から変わっていく。希望ある社会がみえてくる」と語ります。

自公は退場を

「よとすか・みうら市民連合」の岸牧子さんは「共通政策には、安保法制廃止だけでなく、コロナ対策はもちろん気候・エネルギー政策やシェンダー平等の実現も入った。そのうえ政権協力の合意もできた。もう自公は退場するのみ」と声を弾ませます。一方、米軍横須賀基地には、この夏、米英の空母やオランダの艦船も相次いで入港。合同演習も実施され、「まるで戦時よろ、9条は瀬戸際。だからこそ、次はない覚悟で、新しい政権樹立へ政権交代のチャンス絶対に逃さない」と語ります。(2面につづく)

安倍改憲終わらせるとき

1面のつづき

立憲民主党所属議員からも政権協力合意に「歓迎」の声を相次ぎます。

「両党間の交渉に当た

られた幹部に敬意を表したい。党の代表特別補佐の小川澤也衆院議員（香川）はこう述べ、「さまざまな制約がある中で一定の合意に至るには困難もあったと思うし、まだまだ本気の共闘は始まったばかり」と、いっそこの前進へ決意を示しま



す。同党幹部の一人も「道のりは長かったが、

これで堂々といろいろなことがやれる」と選挙協力の深化へ意欲を見せました。

菊田真紀子衆院議員（新潟）は「この間、知事選挙や市長選、県議選など各級選挙でも共闘は深まって、市民と野党の相互の信頼と絆は強くなってきている。そこで今回の政策と政権協力で合意できなごとは大きな弾み。街頭でも『立憲民主』と言う以上に『野党統一』をアピールしている。庶民の生活が苦しい中、消費税減税を打ち出せたのは力になる」と語ります。

直りようがない

「オール埼玉総行動」

実行委の小出弁護士は、「2014年の解釈改憲が私たちの運動の根源だ」と語ります。「憲法の解釈を一内閣が勝手に変えた。単なる憲法違反じゃない。立憲主義の丸ごとこの破壊であり絶対に許されないと強調。

「これは政権交代をしなければ直りようがない。その最大のチャンスがここだ」と語ります。岸田文雄首相自身が、日米同盟強化と安保法制に基づいて台湾海峡への関与、「在任中の改憲」を強く打ち出すと、小出氏

は「安倍改憲を終わりにする」と強く決意します。

「市民連合の新潟」の



総がかり行動で訴える志位和夫委員長（4日、衆院衆議会議事堂前）

「日本では政権交代が起ころうとも政治の自身が変わらない状況が続いてきたが、共通政策を基礎とした政権協力合意で、本格的に政治の中身の改革が問われる選挙になる」と指摘。新自由主義を続けるのか、対米追従で沖縄を見捨てるのか、中国敵視で戦争の準備をするのか。佐々木氏はそれとは違う別の道を選択し「20年、30年かけて本腰を入れて日本を立て直す、大きな進路をめぐるたたかいになる」と語ります。

「市民連合の新潟」の

15年9月の国民連合政府と野党共闘の提起以来、その推進、擁護、発展、独自の努力を二貫して強めてきた日本共産

党の姿勢に共感の声も。総がかり行動実行委の高田氏は「共闘にはいろいろな形があるが、今よりよく実現した共闘体制への共産党の我慢も含めての努力は、これがなければ絶対に行きなかつた」と語ります。

閣外協力について、日本共産党の志位和夫委員長が「私たちは大臣のポストが欲しくてやっているとわけではない。日本の政治が変わらばいいわけです」と語ったことについて、「市民連合の新潟」の佐々木氏は「掛け値なく立派だと思ふ」と指摘。「政治とは、数や権力やポストやお金などというものが今までの保守政治。しかし、理念や政策が一番大事なのは。共産党がやっていることは、

閣外協力がしっかり政権に参加しようという、21世紀的で、エレガントで、市民的な取り組みだ」と語ります。「さすが・みろろ市民連合」の岸さんは「共産党の頑張りがなければここまでできなかった。それなのに、志位さんは『ポストはいらない』と言って、一番大事なことで団結しようと呼びかけている。その姿勢だからこそ、共産党はどんなに大変な時も、時には身をていして下支えして頑張れるのだと思ふ」と語ります。

明確に姿を現した、自公連合対市民と野党の共闘という対決構図。政権交代の風は、大きなうねりとなって広がっています。（中相眞二）